

■ 整備要領

(1) 車上天検

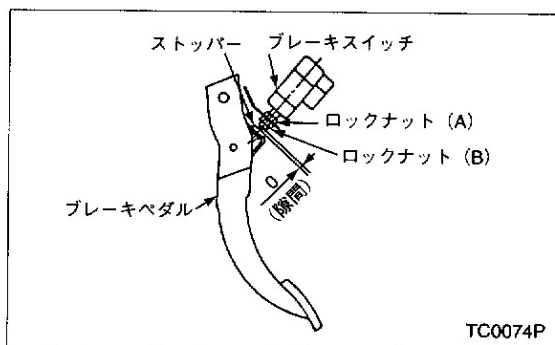
＜ブレーキペダル高さ点検＞

1. エンジン停止状態でペダルのパッド上面からペダルブラケット下側取付点までの寸法を測定する。

標準値	$l_1$	140mm
-----	-------	-------

＜ブレーキペダルの高さ調整＞

1. ストップランプスイッチのコネクターを分離する。
2. ストップランプスイッチのロックナット (A) (B) をゆるめ、ストップランプスイッチがブレーキペダルのストッパーと接触しない位置まで移動する。
3. オペレーティングロッドのロックナットをゆるめロッドを回転し、ペダル高さを調整する。
4. ロックナットを固定する。
5. ストップランプスイッチのネジ部とブレーキペダルのストッパーの隙間が0mmになるよう調整する。



6. 5. の状態でストップランプスイッチをロックナット (A) により固定する。
7. ストップランプスイッチのコネクターを接続する。
8. ブレーキペダル高さ・遊びおよびストラップランプの点灯を点検する。

＜ブレーキペダルの遊び点検＞

1. エンジン停止状態でブレーキペダルを2～3回踏み込み、ブレーキブースターの負圧をなくした後、ペダルを指で押し、重くなるまでの寸法（遊び）を確認する。

標準値 (mm)	1～3
----------	-----

＜ブレーキペダルの遊び調整＞

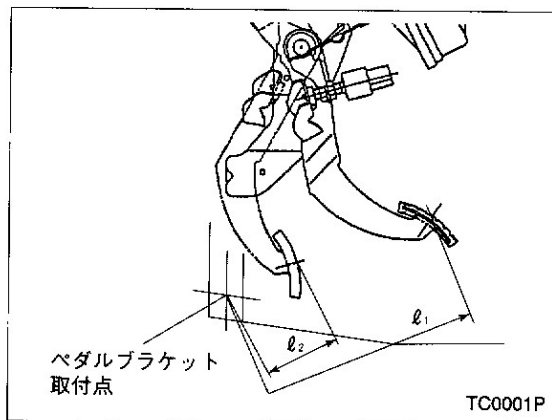
1. オペレーティングロッドのロックナットをゆるめロッドを回してペダルの遊びを調整する。
2. ブレーキペダル高さおよび、ストップランプの点灯を点検する。
3. ロックナットを締付ける。

＜ペダル踏み残りしろの点検＞

1. エンジンを始動し、ペダルを30kgで踏み込んだときのブレーキペダル上面からペダルブラケット下側取付点までの寸法を測定する。

標準値	$l_2$	50mm以上
-----	-------	--------

2. 踏み残りしろが基準値以下の場合、次の個所を点検する。
  - ブレーキ系統のエア混入

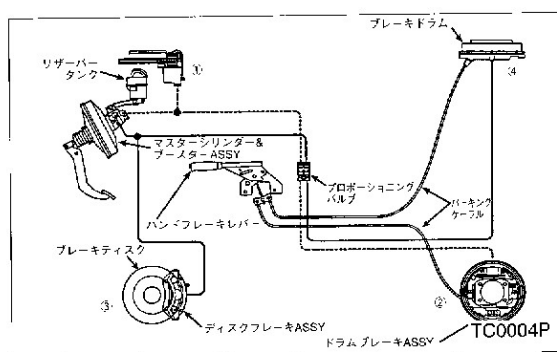


<エア抜き>

- 化学変化を防止するため銘柄の異なるブレーキフルードは使用しないこと。
- ブレーキフルードは塗装面をいためるので、こぼさないよう注意すること。またこぼした際は速やかにふき取ること。
- エア抜き作業中、リザーバタンク内のブレーキフルード量に注意し、空にしないこと。
- エア抜き作業中のブレーキペダルのポンピングはゆっくり行う。
- 抜き取ったブレーキフルードは再使用しないこと（ブレーキフルードは吸水性があるため）。
- 未使用のブレーキフルードの保管は容器のフタをきちんと閉め、空気中の水分を吸わないようにする。

<エア抜き作業>

- 図に示す ①→②→③→④ の順で行う。



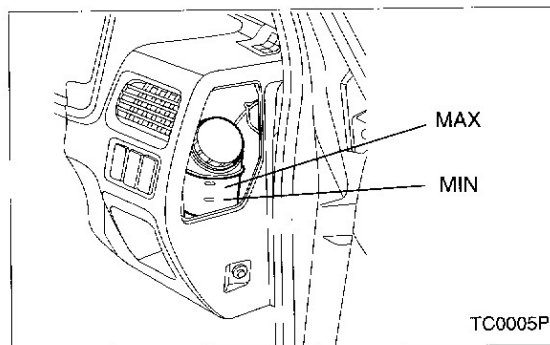
1. ホイールシリンダーのブリーダーからエア抜きを行う（4輪共）。

**注意**

標準ブレーキ、ABS付ともにエア抜きの要領は同じである。

<ブレーキフルードの液量点検>

1. インパネ右側のリザーバタンクカバーを取って、リザーバタンクのブレーキフルード上面がMINレベルからMAXレベルの間にあるか点検する。



2. ブレーキフルード上面がMINレベル以下の時はブレーキフルードを補給する。

**注意**

- タンクキャップはストッパーに当たりロックするまで、確実に組み付ける。
- ブレーキフルードをリザーバタンクに補給する場合はオーバーフローさせないように十分注意すること。万が一オーバーフローさせた場合は、周囲の部品に付着したり（塗装面、マット類）侵入した（特にスイッチやハーネスカプラー類）フルードは確実に除去すること。

<パーキングブレーキ引きしろ点検>

- パーキングブレーキレバーを操作力20kgで2～3回操作したときの引きしろを点検する。

基準値 | 7～9ノッチ（操作力20kg）

